



# 関東歯内療法学会

第24回 サマーセミナー

テーマ

ザ・ラバーダム A to Z

2021年8月26日(木)

開催方式: Zoom ウェビナー配信

主催

関東歯内療法学会

## タイムテーブル

---

- 17:45～17:50 開会の辞（石井 隆資 会長）
- 17:50～17:52 協賛企業挨拶  
（トロフィー・ラジオロジー・ジャパン株式会社 様）
- 17:55～18:25 第1回講演：宮崎 真至 先生
- 18:30～19:00 第2回講演：清水 雄一郎 先生
- 19:05～19:35 第3回講演：辻本 真規 先生
- 19:35～20:10 総合討議（座長：天川 由美子 常任理事）
- 20:10～20:15 閉会の辞（金丸 順策 副会長）

# 第 1 回講演

---

## ラバーダム法に必要な器具と コンポジットレジン修復への応用

宮崎 真至 先生

### 講演概要

歯科診療において、修復処置の前に行うべきいくつかのステップがあり、それらは前準備諸法と称されている。ラバーダム法は前準備諸法のひとつであり、歯学教育においてもその重要性は高く、歯学部学生が診療参加型臨床実習を行うにあたって行われる OSCE の課題としても採用されている。一方、歯科治療の手技に関しては、いかにしてこれを簡略化するかに努力が傾注され、これによってチェアタイムの短縮が図られてきた。不要なものは行わない、あるいは簡略化することで診療時間短縮という要求に対応して歯科臨床が発展してきた。しかし、ここで今一度考えたいことは歯科診療の確実性を高めるためには、前準備諸法が望まれることも多いということである。臨床におけるステップ数は確実に増えるとはいえ、処置の正確性あるいは適正化を図り、これによって良好な予後が得られることは、患者にとっては大きな恩恵となるはずである。患者に安心と安全を与える診療を行うとともに予知性の高い予後を得るためにも、ラバーダム法は欠くことのできない前準備諸法のひとつといえる。

本セミナーにおいては、ラバーダム法に必要な基本的器具を復習するとともに、コンポジットレジン修復におけるラバーダム法の重要性について、臨床的な観点から解説を加える予定である。

### 略歴

- 1987年 日本大学歯学部卒業
- 1991年 日本大学大学院修了，博士（歯学）
- 1991年 日本大学助手（歯学部保存学教室修復学講座）
- 1994年 米国インディアナ州立大学歯学部留学（1996年まで）
- 2003年 日本大学講師（歯学部保存学教室修復学講座）
- 2005年 日本大学教授（歯学部保存学教室修復学講座）
- 2014年 日本大学歯学部附属歯科病院 病院長（2019年まで）

## 第 2 回講演

---

### ゴールド修復におけるクラシックラバーダム

清水 雄一郎 先生

#### ■ 講演概要

1800 年代初頭に多くのアメリカ人歯科医師がゴールドを使った歯科治療をはじめました。その後ラバーダムが発明され、1964 年ニューヨークにて世界で初めて公開実演されました。つまり、ゴールド修復の歴史はラバーダムの歴史より長いのです。本日は、私の所属する、米国タッカー・ゴールドスタディクラブ、米国金箔術者学会を通して学んできた中で、ラバーダムに関して、2021 年の臨床にも役立つであろうヒントを共有させていただこうと思います。

#### ■ 略歴

|               |   |
|---------------|---|
| 1996 年        | 暁星高等学校 卒業   |
| 2002 年        | 日本歯科大学 卒業   |
| 2007 年～2009 年 | 米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 総合診療プログラム 修了<br>Advanced Education in General Dentistry |
| 2009 年～2010 年 | 米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校 保存修復プログラム 修了<br>Restorative Dentistry                          |
| 2016 年        | Shimizu Dental Clinic 開業  |

The Academy of R.V. Tucker Gold Study Clubs

The Academy of Operative Dentistry

The American Academy of Gold Foil Operators

日本メタルフリー歯科学会

## 第3回講演

---

# 今だから聞きたい！ エンドとセラミック修復のためのラバーダム防湿

辻本 真規 先生

### 講演概要

近年マイクロスコープの普及に伴い、歯内療法的重要性を認識し、ラバーダム防湿を行う先生も多くなってきたように感じられる。しかし、ラバーダム防湿を教わる機会やセミナーはかなり限られており、多くの先生方は学生時代の情報で止まってしまっているのではないのでしょうか？今回は、歯内療法における正しいラバーダム防湿の方法や、隔壁の作成方法に加え、歯肉縁下を含むセラミック修復における正しい接着を考えたアドバンスなラバーダム防湿法について考察をおこないます。

### 略歴

|             |  |
|-------------|--|
| 2008年       | 日本大学松戸歯学部卒業  |
| 2008年       | 日本大学松戸歯学部附属病院研修医   |
| 2009年～2013年 | 開業医勤務  |
| 2009年       | 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科入学   |
| 2013年       | 日本顕微鏡歯科学会 認定医取得  |
| 2013年       | 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科修了、博士（歯学）取得                                      |
| 2013年～2018年 | 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科齲蝕学分野助教  |
| 2015年       | 日本歯内療法学会関東甲信越静支部 第9回ウィンターセミナー鈴木賢策賞受賞<br>第12回日本顕微鏡歯科学会学術大会 大会長賞受賞 |
| 2016年～      | 日本顕微鏡歯科学会代議員   |
| 2017年～      | 九州歯内療法学会理事、日本顕微鏡歯科学会認定指導医取得<br>デンツプライシロナ エンド公認インストラクター           |
| 2018年       | 福岡市で辻本デンタルオフィス開業   |

（著書は割愛）

